

2 2 鉄道施設の改修・更新事業に対する支援など 地下鉄事業に対する財政措置の拡充

地下鉄事業の経営健全化を進め、安全で快適な交通手段として将来にわたって安定的に運営していくため、次のとおり求めます。

提案・要望事項

- (1) 鉄道施設の改修・更新事業に対する補助制度の拡充
- (2) 烏丸線への可動式ホーム柵の設置促進に対する支援
 - ・ 整備促進に向けた補助制度の更なる拡充
 - ・ 安全かつ低コストで整備可能となる技術開発の促進
- (3) 鉄道施設の安全対策や利便性向上等の取組に対する支援
 - ・ エコレールラインプロジェクト事業（鉄道事業の省電力化・低炭素化）の平成30年度以降の継続と要件緩和
 - ・ 外国人旅行者の受入環境整備に向けた車両案内表示の多言語化（4箇国語化）を加速させるために必要な補助金の確保と要件緩和
 - ・ 地下鉄駅出入口の浸水対策に対する補助金の確保
- (4) 高金利建設企業債の借換制度の創設（3%以上での借換実施）

地下鉄の果たす役割

年間5千万人を超える観光客。1日当たりの旅客数は約37万2千人、市内鉄道輸送の約55%を担う交通の大動脈。

まちづくりに不可欠な都市装置であり、将来にわたって維持していくことが必要！



公営地下鉄事業者で唯一の経営健全化団体

東西線の建設がバブル期と重なったこと等から建設費が高騰（要した建設費は全線で総額約8,500億円）

財政状況（27年度決算）

- ・借入金残高 **3,911 億円**
- ・累積資金不足額 **309 億円**

公営地下鉄事業者で最大！

大きな
財政負担

経営健全化計画期間中（平成21～30年度）の所要経費は**420億円超**
→開業35年を経過し、既設線の改修・更新事業が本格化

要望

- ①鉄道施設の改修・更新事業に対する補助制度の拡充
- ②烏丸線への可動式ホーム柵の設置促進に対する支援
補助制度の更なる拡充と安全かつ低コストな技術開発の促進
- ③鉄道施設の安全対策や利便性向上等の取組に対する支援
 - ・エコレールラインプロジェクト事業の継続と要件緩和
 - ・車両案内表示の多言語化（4箇国語化）を加速するために必要な補助金の確保と要件緩和
 - ・駅出入口の浸水対策に対する補助金の確保
- ④高金利建設企業債の借換制度の創設（金利3%以上での借換実施）

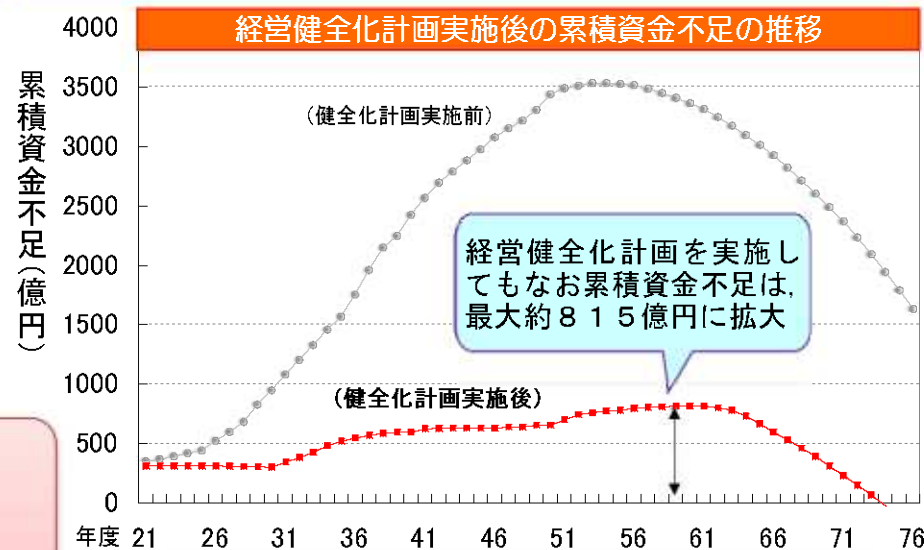
経営健全化の推進

＜経営健全化計画の主な取組状況（27年度決算）＞

- ① 1日当たり旅客数（H21比 4万5千人増）
- ② 駅ナカビジネス収入（H20比 7億7千万円増）
- ③ 職員数の削減（H20比 103人減、8億円削減）
- ④ 一般会計からの経営健全化出資金（H16～27 累計 857 億円）

収支の状況（27年度決算）

- 経常収支 H20 △144 億円 → H27 8 億円
- 現金収支 H20 △ 38 億円 → H27 98 億円



経営健全化が着実に進むも、今後、累積資金不足が**309億円から更に増加し**、引き続き、厳しい経営状況！

実現すれば、約23億円の利子負担軽減が可能！